

ウイルス学会関連研究集会紹介

## 4. 日本レトロウイルス研究会夏期セミナー 2013 報告

### 細谷 紀彰

東京大学医科学研究所 感染症国際研究センター

#### 日本レトロウイルス研究会とは？

日本レトロウイルス研究会はレトロウイルス研究に携わる若手研究者の交流の場として1998年に創設され、以来毎年夏期に行なわれるセミナーを中心に活動を続けている研究会です。本研究会が主催する夏期セミナー「Summer Retrovirus Conference (SRC)」は、日本ならびに海外の研究機関に所属する研究者と学生が中心となってレトロウイルスに関する研究を発表する会です。堅苦しい雰囲気を排除し、建設的かつ友好的な雰囲気の中で活発な議論を行なうことによって、お互いの研究を高めること、および若手研究者の育成を目的としています。

#### SRC の特徴

SRC は、教授もポスドクも大学院生も立場に関係なく、サイエンスという同じ土俵の上でざっくばらんに討論できる会を目指しています。垣根をなくすための方法としていくつか独自の特徴があります。1：発表者を～先生と呼ばない。お互い一研究者として発表およびディスカッションをおこないます。2：発表については発表者自身が責任を持つことを求められます。同じラボの上司などに助けをもらうことをなくし、自分の力で最後までディスカッションを乗り切るよう努力します。3：発表内容に関する決まりはありません。プレリミナリーなデータでも、これから開始予定の研究についてのディスカッションでも、研究の裏話でも、サイエンスの話であれば基本的に自由に発表可能です。

#### SRC2013 について

今年で第16回を迎える SRC2013 は伊豆山研修センター（静岡県熱海市）で7月11日（木）～13日（土）の2泊3日で開催されました。参加者は関東一円、名古屋、京都、大阪、熊本およびシンガポール、アメリカ、ベトナムで研究をしている日本人研究者も含めて40名以上の方々でスタッフ、ポスドク、学生で約1/3ずつの割合で参加がありました。

演題はヒト免疫不全ウイルス（HIV）、サル免疫不全ウイルス（SIV）、マウス白血病ウイルス（MLV）、ヒト内在性レトロウイルス（HERV）、サルレトロウイルス4型（SRV4）、ヒトT細胞白血病ウイルス（HTLV-1型）に関する発表があり、その中でも、HIV関連の演題が多くを占めた。内容は、ウイルス学的研究の他に、これらレトロウイルスを用いた免疫学的解析、宿主因子の解析、構造学的解析、薬剤耐性の研究、ウイルス解析のための検出法の開発、スクリーニング系の開発、エピジェネティック解析など幅広かった。最終日に出席者全員の投票により Best Presentation Award が決定され、京都大学ウイルス研究所の蝦名博貴さんが受賞しました。

#### 毎年世話人によって変わるユニークな試み

これまでも SRC2010 では日本モンキーセンター（京都犬山）で、HIV の起源（SIV）とサルに関する討論会やサルの飼育・管理などを学習したり、SRC2012 では留学などで海外で生活している日本人研究者の方とスカイプを使い遠隔での発表が行なわれたりと、新鮮な試みが多く行なわれている。

今年は色々な分野の研究者が集まる中で少しでも知識整理の助けになればと思い、ポスドク、博士課程大学院生を中心に Review をお願いした。HIV の Env/Entry, レポータータンパク質（GFP とルシフェラーゼ）、APOBEC, TRIM5 *a*, tetherin, SAMHD1, HIV 特異的 CTL 応答の Review に引き続いて各分野での演題発表がおこなわれた。演題発表でも発表・質疑の時間制限を設けず無制限とした。研究に対する思いを存分に発表にぶつけてもらい、質問も基本的

---

#### 連絡先

〒108-8639

東京都港区白金台4-6-1

東京大学医科学研究所 感染症国際研究センター

TEL: 03-5449-5336

FAX: 03-5449-5427

E-mail: hnori@ims.u-tokyo.ac.jp

になくなるまで徹底的に討論したいという所からこの形式にさせて頂いた。研究者も自分の研究について存分に語り、質問に対しても熱い議論が交わされたと思っている。

また、懇親会場では1日目、2日目とお酒をのみながらのセッションを2つ用意した。1日目は演題のないスタッフの方には研究室の紹介を、演題のない学生の方には自己紹介をお願いし、すこしでも他施設の方々と親しくなるキッカケが増えればと、開催中に参加者全員が何かしら発表できる機会を設けた。2日目は海外で研究している（もしくはしていた）方に海外における研究生活についてお話を聞いた。シンガポール、中国、アメリカ、ベトナム、スペインの研究事情が聞けて学生さんの刺激にもなり、文化の違い、生活の違いがあるリアルな話が聞けて大変興味深かった。

スケジュール的には朝から夜まで演題があり、かなりハードなスケジュールだったが、それでも2日間とも懇親会では朝日が昇る頃まで人が残り、サイエンスについて語り合えたことは非常に有意義であった。また、2日目の夕食では野外でBBQをしたり、夜は疲れた体を宿舎の温泉で癒せたりと、メリハリがついて非常に充実感のある会になったと思っている。2泊3日で寝食を共にすることによ

りレトロウイルスについて学び語り合う濃密な時間が過ごせると共に、お互いの活力が刺激となり、また次の日からラボで研究を頑張ろうというエネルギーの一助となればと願っている。

### Tokyo Retrovirus club (TRC) について

日本レトロウイルス研究会の分派的に東京を中心にレトロウイルスに興味のある研究者が約2ヶ月に1回程度、場所は国立感染症研究所、東京医科歯科大学、東京大学医科学研究所を持ち回りで若手研究者・学生を中心に金曜日の夜にレトロウイルスに関する勉強会および終了後に懇親会を設けて交流や意見交換を行なっています。興味のある方は (<http://tokyoretroclub.blog.fc2.com>) をご覧ください。

### SRC2014 について

来年度は国立感染症研究所 エイズ研究センターの原田恵嘉さん、石井洋さんが世話人となり開催されます。レトロウイルス研究に少しでも興味をお持ちの方々の参加を期待しています。SRC, TRC へ興味をお持ちの方はメールアドレスへ連絡を頂ければ案内を送らせて頂きます。



写真(上段):BBQ(2日目夕食)での集合写真、(中段):演題発表の様子、(下段):懇親会場での和やかな雰囲気での発表の様子